

2024年10月16日

学部生・大学院生 各位

国際教育交流課

京都アメリカ大学コンソーシアムでの英語講義受講生
【2025年春学期（第40期生）】募集について

「京都アメリカ大学コンソーシアム Kyoto Consortium for Japanese Studies」(以下 KCJS) は、米国の 13 校の大学が運営する教育機関です。同志社大学今出川キャンパス内で講義が行われ、毎年、約 30 名の日本研究を志す米国の学部生が参加しています。講義内容は日本に関する社会科学・人文科学の両分野において、古典から現代に至るまで幅広く網羅されており、海外の加盟大学から赴任している教授および関西在住の研究者が講義を担当しています。

京都に居ながら、米国本校で提供されるのと同等の講義を受け、米国の大学生と共に学んで交流し、米国留学を疑似体験できる貴重な機会です。

下記の通り、KCJS が提供する英語講義の受講を希望する京都大学学生を募集します。

※本講義は審査のうえ、所属学部・大学院から単位として認定される場合があります。詳細は、「5.諸留意点」の(6)を参照してください。

記

1. 募集要項：

講義はすべて英語で行われます。米国学生と同様の課題が課せられ、講義への積極的な参加が求められます。登録者は京都大学の代表として KCJS の講義に参加します。参加決定後の受講取り止めや無責任な欠席は認められませんので、よく考えた上で応募してください。

(1) 募集人数 : 8名程度 (1講義につき本学学生の参加は2名程度とする)

(2) 応募資格 :

- ① 2024年度後期に本学に在籍する学部生・大学院生 (休学中の者及び2024年度に卒業、修了見込みの者は応募不可)
- ② TOEFL iBT 79、TOEFL ITP 550、又は IELTS 6.0以上の英語能力を有する者
- ③ 日本及び日本語に関する相当の知識を有する者
- ④ 受講希望科目についての基礎知識を有する者

2. 日程：(参加必須)

- ・応募締切 : 2024年11月15日(金) 17:00
- ・面接 : 2024年11月21日(木) 12:15-13:05
- ・合格者説明会 : 2024年12月16日(月) 12:15-13:05

-
- ・ KCJS オリエンテーション：2025 年 1 月 9 日（木）10：30～11：45
 - ・ KCJS 授業期間：2025 年 1 月 14 日（火）～4 月 18 日（金）
 - ・ KCJS テスト期間：2025 年 4 月 22 日（火）～4 月 23 日（水）

3. 費用： 受講料は無料です。教科書・参考書の費用は受講生各自が負担してください。

4. 応募方法： 応募はオンライン申請及び国際教育交流課への応募書類原本の提出が必要です。
「KCJS/SJC 応募方法・手順について」に従って手続きしてください。（「KCJS/SJC 応募方法・手順について」は KULASIS 全学生向け共通掲示板から、「KCJS」で検索し、掲載ページの添付ファイル内から入手できます。）また、申請書、推薦書のワード版は、京都大学ウェブサイトからダウンロードできます。

5. 諸留意点：

- (1) 講義は KCJS（同志社大学今出川キャンパス扶桑館 2 階）で行われます。
- (2) 受講期間中は、以下の保険に加入必須です。
 - ① 学生教育研究災害障害保険
 - ② 学研災付帯賠償責任保険（※留学生の場合は学生賠償責任保険）
 - ③ 学生総合共済（生命共済）
- (3) 今学期に提供される科目は、別紙「授業概要」の通りです。この中から希望の科目を選んで応募してください。
- (4) 京都大学及び KCJS の書類、面接等による選考を経て許可を得た者のみ受講できます。
- (5) オリエンテーション～授業期間終了までの間に就職活動中の場合は、原則として申請を避けてください。
- (6) 科目登録・単位認定に関する注意事項：
 - 1) 本講義は 2024 年度後期科目*です。大学が一括して登録手続きを行いますので、KULASIS 等への登録手続は不要です。
（*所属学部・研究科によって単位認定時には前期・後期の区別がない場合があります）
 - 2) 単位認定について
 - ① 本講義受講にあたっては、単なる聴講は認められず、必ず単位認定審査をする必要があります。
 - ② 参加が決まった学生は、所属学部・研究科に単位認定の審査を申請することになります。詳細は合格者説明会で説明しますが、各学部・研究科により 2024 年度後期科目の単位認定事前申請の締め切り日が合格者説明会よりも前に設定される場合もありますので、応募の際は、各学部・研究科教務担当窓口にて単位認定事前申請締め切り日を確認し、必ず申請できるように準備してください。また、面接後に合格者宛に詳細をメールでご連絡しますので、申請方法についてはメールをご確認ください。
 - ③ 単位として認められる場合は、(1) 所属学部・研究科の単位、(2) 全学共通科目の単位のいずれかとなりますが、学年、所属学部・研究科により異なります。

- ④ KCJS から単位は付与されません。
- 3) 2024 年度後期に本科目と他科目との時間割が重複した場合は、いずれか一方の履修しかできません。重複がないかを確認するため、授業登録情報 (KULASIS) のコピーの提出が必要です。
- 4) 履修を学期途中で取りやめることはできません。
- (7) KCJS 及び SJC (スタンフォード日本センター) の英語講義の受講経験者も応募できます。ただし、受講経験のある講義には応募できません。

※受講経験者の感想を以下の URL に掲載していますので、参考にして下さい。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/class/kcissjc/kcjs-hokoku>

(京大 HP > 教育・学生支援 > 海外留学を希望する京大生へ > 京都で学べる英語の授業 > KCJS/SJC 講義の受講 > KCJS 参加報告書)

<参考>

京都アメリカ大学コンソーシアム Kyoto Consortium for Japanese Studies は 1989 年に設立されました。参加大学は、ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガン大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学 (セントルイス校)、イェール大学、バージニア大学です。KCJS プログラムの参加学生は 2 年以上の日本語学習経験があり、日本語や日本文化に深い関心を持っています。

所在地：〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入 同志社大学扶桑館 2F 京都アメリカ大学コンソーシアム

【本件問合せ先】 国際高等教育院 河合淳子 教授・若松文貴 准教授
国際・共通教育推進部国際教育交流課海外留学掛 滝本
Tel: 075-753-5407 Email: kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

KCJS 応募方法・手順について

応募者は、下記の 1～3 を応募締め切りまでに完了してください。

1 以下の①～③の資料をスキャンまたはダウンロードし、データファイルを作成する。

- ① 写真（胸から上を収めたもの）
- ② 英語能力のスコア
※提出されたスコアは本学の統計資料として利用する事があります。ただし、教育・研究目的のみに利用され、個人情報他へ漏れることは一切ありません。
- ③ KULASIS の時間割表スクリーンショット画像

2 オンライン申請で登録する。（印刷が可能な環境で申請を開始すること）

- (1) 申請画面にアクセス
オンライン申請画面 URL ※http ではなく https です※
<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

ログイン ID : tankihaken_1704
パスワード : N9St1K
- (2) 必要項目を入力し、**1**の①～③をアップロードする。
(①を顔写真データ、②を提出書類 2、③を提出書類 3 にアップロードすること)
- (3) 参加申込書を印刷、署名

3 国際教育交流課窓口へ下記書類の原本を提出する。

- ・参加申込書（オンライン申請後に印刷、署名したもの）
- ・申請書（様式有）
- ・推薦状（様式有）※指導教員の署名必須

◆講義時間割◆

京都アメリカ大学コンソーシアム 2025年 春学期

(2025年1月14日～2025年4月23日)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1					
2					
LUNCH BREAK					
3 13:10 - 14:40	Japanese Modern Architecture (Benoit Jacquet)	Gender and Identity in Japanese History and Culture (Caitlin Casiello)	Women's Documentary Film in East Asia (Mitsuyo Wada- Marciano)	Japanese Religious Visual Culture (Hillary Pedersen)	Gender and Identity in Japanese History and Culture (Caitlin Casiello)
4 14:55 - 16:25					
5 16:40 - 18:10					

・同一科目が1週間に2回ある場合は両方の講義に出席する必要があります。片方だけの講義出席は認められません。

・期間中、各講師の都合によりクラス時間の変更等が生じる場合があります。

・金曜日・週末にはクラスのField Tripが行われる場合があります。

KCJS2025 年春学期 開講授業概要

■ Japanese Modern Architecture

Instructor: Benoit Jacquet

This seminar is an introduction to Japanese architecture through the prism of the history and theory of architecture in Japan. The objective is to provide a comprehensive understanding of “what is Japanese architecture?” Apart from the existing literature and the present-day knowledge on the field of Japanese architecture, the presence of architectural heritage in Japan and in Kyoto city in particular is also a valuable way to discover Japanese architecture “on site”. The topic of this seminar is to understand the synchronicity of both contemporary and ancient architecture in the XXIst century, and the importance of being immersed in this human-made heritage. The formation and the production of Japanese modern architecture is the result of a historical process, and interpretations of the past, which have adapted to the contemporary milieu, and physical, social and mental possibilities. Thus, this seminar will alternate a theoretical approach, through on class seminar presentations, and “fieldwork”, as active on-site visits of architectural works.

■ Gender and Identity in Japanese History and Culture

Instructor: Caitlin Casiello

Brief Course Description:

This course provides a survey of Japanese history and culture through the lens of gender as a special topic. Taking as given the feminist theoretical proposition that gender roles are partly determined by time and place, we look at a number of moments in Japanese history to explore how gender was constructed, how it was expressed, and how it transformed in each instance. Topics discussed include classical literary culture and gendered writing practices, the potential of a “third gender” in medieval literature and other forms of gender variance, sex work in Edo, gendered performance in Kabuki, masculinity and samurai culture, feminist analysis of the clan system, modern literature and women writers, and contemporary debates on gender, family, and sex.

Course Objectives:

1. Learn about the history of Japan and gain broad familiarity with different modes of literary and cultural production throughout Japanese history.
2. Conduct research on Japanese history and culture using sources effectively.
3. Analyze gender as a category of human experience shaped by different cultural and historical norms in Japanese history.

■ Women's Documentary Films in Japan and Beyond

Instructor: Mitsuyo Wada-Marciano

Course Description:

The objective of this course is to unlearn “Documentary Film History” via examining documentary films directed by Japanese women filmmakers and beyond. When it comes to filmmaking, male directors and cameramen have historically made up a large percentage of the workforce. Especially in the history of documentary film, most directors who are considered canon are male. In the case of Japanese cinema, for example, names such as Noriaki Tsuchimoto, Shinsuke Ogawa, Kazuo Hara, and Kazuhiro Soda must be the first that come to mind as central figures in the history of documentary film.

However, the number of female documentary filmmakers has been increasing as digitalization has brought about further miniaturization of filming equipment, with the software required for editing has become cheaper and simpler. East Asian cinemas are no exception. This course will reconsider the history of documentary film by tracing the genealogy of documentary films made by women. While shedding light on the cinematic scenes, we will scrutinize contemporary documentary films made by women in Japan and beyond.

■ Japanese Religious Visual Culture

Instructor: Hillary Pedersen

Themes and goals ;

Visual culture is best understood as a way of studying societies and cultures through images, rather than words. It is an investigation into the lives of images, and focuses on subjects, rather than objects. This course explores how sculpture, painting, architecture, ritual objects, prints, and contemporary media relate to different forms of practice and belief in Japan. We will study the iconography, formal characteristics, functions, and the sacred nature of Buddhist and Shinto visual culture through weekly readings and site visits. Emphasis is placed upon developing students' knowledge of religious signifiers, visual analysis skills, as well as helping them understand visual culture in its physical, historical, ritual, and social context. The theme of cross-cultural exchange will be ever-present in lectures, as well as in the writing assignments and discussions that reinforce course content. The course will incorporate visits to sites and events in Kyoto with significant relevance to Japanese religious culture.

※シラバスの詳細はこちらから↓

[Elective Courses](#) | [Study at KCJS](#) | [KCJS](#)

受講申請書

京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS) 2025 年春学期

学部/研究科・学年	学籍番号	氏名
専門分野・関心のある領域		京大での指導教員名

(1) 本学において履修した国際交流に関わる科目

外国語科目を除く英語で講義を行う E2 科目、その他国際交流に関わると考えられる科目について、科目名、成績を列記して下さい。※受講中の科目については「受講中」と記載すること。また KCJS/SJC の聴講・受講経験もすべて記入のこと (KCJS 第〇期〇年度 秋学期 等)。

--

(2) 受講希望科目

- ・第一希望 (講義名:) 曜日 () 時限 ()
- ・第二希望 (講義名:) 曜日 () 時限 ()

※どちらかに✓して下さい

1 科目だけの受講希望 / 可能であれば 2 科目受講希望するが、1 科目だけでもよい

(3) 志望理由

--

(4) 面接日について

募集要項内-「2.日程」に記載の面接日程のうち、都合の悪い日時とその理由を記入してください。授業等の公的な理由 (アルバイト、部活動は不可) に限ります。全日程可の場合は無記入で結構です。

月 日 (:) ~ (:) (理由:)
月 日 (:) ~ (:) (理由:)
月 日 (:) ~ (:) (理由:)

※応募締め切り後に、応募者宛てに面接時間をメールで連絡します。メールの受信をよく確認して下さい。

